



こちらはコストを抑えたSTR-1001というモデル。ボスリントン型で釣行後にそのまま街へ遊びに行きたいときに重宝するデザイン。このほか、ストームライダーブランドでタウンユースにも違和感のないデザインとした限定企画のストームライダーヴァンテージSR-011LTDもラインナップ

ストームライダーはここがいい 高橋洋一の場合

高橋洋一＝解説
lectured by Yoichi Takahashi
愛眼＝取材協力
special thanks to AIGAN



ストームライダーSR-005-P
(現在は後継モデルのSR-009-Pにアップデートされている)

顔にフィットするフレームは掛けていてストレスがない

僕が普段掛けているのはSR-005-Pというスポーツカーブタイプのフレームで、一番レンズの横幅が広いタイプです。なぜこのタイプを選んでいるかというと、僕の顔の形にフィットするからです。海外ブランドの偏光グラスや、プラスチックで一体成型されたフレームのモデルだと顔の形に合わず、眉毛がレンズの内側にぶつかってしまうことがあります。

ストームライダーシリーズは、日本人の顔にフィットしやすいアジアフィットのデザインで作られています。そのうえ、鼻あてが調整可能な別パーツでできているので、掛けてみてちょっと目に近すぎるな、と思うときは鼻あてを少し高い位置に調整できます。

調整できると言えば、耳かけの部分がワイヤー入りの柔軟性のあるパーツでできていて、これも顔の形に合わせて調整できます。たとえば、偏光グラスを掛けると耳かけの後端が頭より少し飛び出してしまふことがあります。冬場にニット帽などをかぶるとここが帽子の内側につかかって、邪魔だったりズレてしまったりしたのですが、ストームライダー

偏光グラスはバスフィッシングに欠かせないアイテムだ。しかし、ひと口に偏光グラスと言ってもデザインやレンズカラーなどがさまざまにある。エキスパートは何を評価してその偏光グラスを掛けているのか。今回は高橋洋一さんに自身が愛用するストームライダーのインプレッションをお願いした。

高橋さんが愛用するスポーツカーブタイプのフレーム。レンズサイドの3本のラインは取り外し可能なキャップがはめ込まれたベンチレーションスリット。冬場など防寒ウェアの中から暖かい温気が上がってくるときにキャップを外せば効果てきめんで曇りにくいという。ほかにSR-002-Pスクエアナロータイプもよく掛ける。1万4000円+税

レンズの使い分けを実践する高橋さん。この笹川湖での50cmオーバーはそれがうまくはまった状況だった。この日は立ち木の影が落ちてくる際にハードベイトを通していく釣りをしてた。日陰のエリアのなかのさらに立ち木の影が落ちていたところを見つけたのが最初はオリブグリーンを掛けていた。しかし陽の強さが変わり、イエロー系ではコントラストが強くなりすぎてほかのところにも目が行ってしまふようになったという。そこでテンダーグレーにローテーション。ちょうどいいコントラストで立ち木の影が見えるようになったという



高橋洋一 (たかはし よういち)
房総リザーバー、相模湖、河口湖など関東のハイプレッシャーレイクに精通するアングラー。2009年までJB河口湖に出場していた元トーナメントアングラーで、現在はバレービル、ラッキークラブ、サンライン、ストームライダー、VTフュージョン、ターバー&シェイプのフィールドスタッフとして忙しい毎日を送る。愛犬家で、ダックスフントのこなつちゃんとともにボートで湖上へ浮かぶ姿がしばしば目撃される。
●ブログ <http://ameblo.jp/bassdog/>

集中力維持の快適フレームとレンズカラーの使い分けで釣果を伸ばしてくれる偏光グラス

ならここを自分で後頭部の形に合わせて曲げることができるので、そのストレスから解消されました。

顔にフィットした偏光グラスは、レンズ外から入ってくる余計な光も防いでくれます。レンズとオデコの間などから入ってくる光はレンズの内側で乱反射して視界が悪化する原因です。ストームライダーはフラットなレンズを装着したタイプでもフレームが顔とレンズの隙間を埋めるようにせり出していて、光を遮ってくれます。

これが光ではなく、木の枝などでも同じことが言えます。レンズと顔の隙間が小さいので、藪こぎをするときや、ボートでオーバーハングの下に潜り込むようなときでも枝などが入って来にくい。こういう面目を保護してくれることもあるので、顔の形に合ったものを選ぶようにしています。

目の焦点が水面に合いやすい スラントシステム

僕がスポーツカーブタイプを選ぶのはほかに理由があります。それはレンズの幅が広いので、広い視界からより多くの情報を得ることができからです。カーブのきつい大きなレンズと聞くと、レンズの端にゆがみが出てしまふと見づらいのを想像する人もいるかもしれませんが、実はストームライダーに使われている

のきつい大きなレンズと聞くと、レンズの端にゆがみが出てしまふと見づらいのを想像する人もいるかもしれませんが、実はストームライダーに使われている



STR-1001 7000円~8000円+税

ストームライダーヴァンテージ SR-011LTD 1万4000円+税

ポリカーボネート製レンズのメリットがそこにあるのです。高品質とされるレンズは加工が難しく職人の研磨が必要で割高となる一方で、フレームセット時にゆがみが出てしまうこともあります。その点、ポリカーボネートは機械によって成形できるので、腕のいい職人には及ばないものの、そこそこの品質のものや安価で大量に作れます。まったく歪まないとは言えませんが、充分満足のいく品質で均質に作れるので、

どの製品をとっても個体差がなく掛けやすいものになっています。それからストームライダーならではの、レンズを10°下向きの角度をつけて取り付けたスラントシステムです。釣りのときは水面を見下ろすことが多いので、やはり見やすいですね。普通のスポーツサングラスを例に挙げますが、ほかのスポーツでは水平方向をいつも見ているので、レンズが垂直になっていると、こういうタイプは水平方向に目の焦

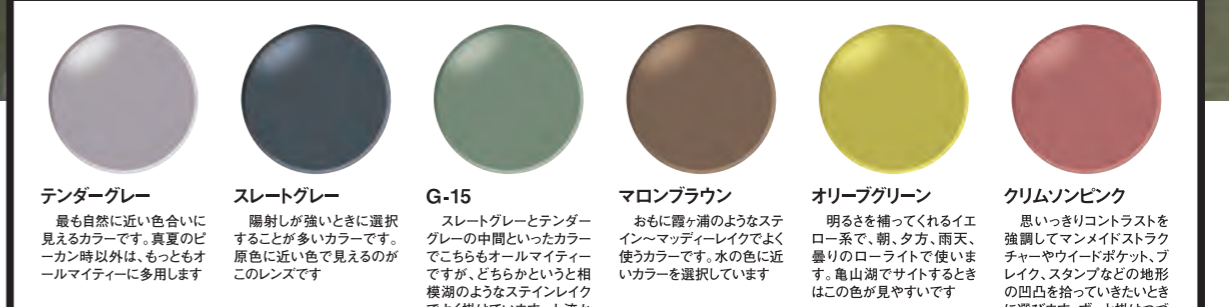
点の合わせやすいんですが、下を見ようとするとき焦点が変わりつつあった。でもストームライダーを掛けるようになって、水平より下を見るときも自然と目の焦点を合わせられる感じがするんです。視線の切り替えにストレスがないんですね。

点を合わせやすいんですが、下を見ようとするとき焦点が変わりつつあった。でもストームライダーを掛けるようになって、水平より下を見るときも自然と目の焦点を合わせられる感じがするんです。視線の切り替えにストレスがないんですね。

このように僕は掛けていてストレスがないことを重視しています。より集中して水の中を見られるので、魚や見つけたいものを見落とすことが減ると思います。

ストームライダーには6種類のレンズカラーがラインナップされていて、僕はすべての色を使い分けています。僕は仮にフィールドテスターでなかったとしてもストームライダーを選ぶでしょう。なぜならストームライダーはレンズ込みで1万4000円~1万6000円+税という低価格を実現しています。ほかの偏光グラスをひとつ買う値段でふたつか3つ買えます。同じ値段を出すならレンズカラーを変えてストームライダーを複数買いたいです。天候や水の色によってその時々が一番見やすいレンズカラーがあるからです。同じ湖でも、たとえば相模湖の本湖から最上流に移動したときなど水の色が変わるので偏光グラスは掛け直します。

僕のレンズカラーの選び方を解説しましょう。僕の場合はレンズカラーは水の色に合わせることが多いです。魚を見つけようとするときは見え方をフラットにしたうえで、視界



- テンダーグレー**
最も自然に近い色合いに見えるカラーです。真夏のピーカン時以外は、もともとオールマイティーに多用します
- スレートグレー**
陽射しが強いときに選択することが多いカラーです。原色に近い色で見えるのがこのレンズです
- G-15**
スレートグレーとテンダーグレーの中間といったカラーでこちらもオールマイティーですが、どちらかというと相模湖のようなステンレイクでよく掛けています。上流から下流まで水色の変化がないようなときはずっとこれを使っていくこともあります
- マロンブラウン**
おもに霞ヶ浦のようなステイン〜マッディーレイクでよく使うカラーです。水の色に近いカラーを選択しています
- オリブグリーン**
明るさを補ってくれるイエロー系で、朝、夕方、雨天、曇りのローライトで使います。龍山湖でサイトするときはこの色が見やすいです
- クリムゾンピンク**
思いっきりコントラストを強調してマンメイドストラクチャーやウイドボケット、ブレイク、スタンプなどの地形の凹凸を拾っていきたいときに選びます。ずっと掛けたままにすることはなくスポッ的に使います

高橋洋一さんのレンズカラー使い分け例



のなかで微妙に動く違和感で探すとが多いからです。どういことかという、魚の背中の色は鳥から見つけにくいようにボトムや水の色に近い保護色になっていますよね。それを水の上から探すということは森のなかで木を探すような難しい作業になります。僕の場合、コントラストを強調しすぎるカラーを掛けてやってしまうと、その激しいコントラストのなかにバスの存在感が埋もれてしまうんです。とくにエレキで流しながら見ていくときは、そのコントラストの激しい景色が流れていくので余計見つけづらくなります。そのため、僕の場合はあえて見え方をフラットにすることで、視界のなかでわずかに動くような魚の存在を違和感として拾うようにしているんです。

逆に魚ではなく、スタンプやブレイクライン、ウイドボケットなど地形変化を見るときは注意とコントラストを強調してくれるカラーのほうがいい見つけやすいです。カコミにて僕の場合の具体的なレンズカラーの選び方を紹介しています。ですが、これはあくまで僕の場合同じ人によって掛けたときの印象は変わると思います。

シチュエーションごとにひとりひとりに見やすいコントラスト具合があつて、しかもそれが天候や水の色で変わってくるので、レンズの使い分けが必要です。ぜひ皆さんも自分に合ったレンズを使い分けてみてください。きつと今まで見つけられなかった魚が見つかるようになり、釣りが楽しく、釣果もアップすると思

いますよ。B